事業評価票（執行体制の見直しを伴う事業）

5	水門管理システムの再構築	所管部署	建設局河川部	22年度予算額	2,253,751 千円

事業概要	・水門等施設は、異常潮位や高潮、津波などの自然災害から都民の生命・財産を守る重要な施設である。 ・これらの施設は水門管理システムによって管理・運用しているが、導入から20年余りが経過し、老朽化が著しいため再構築を行っている。				
成果・課題等	・現行の水門管理システムは機器の老朽化による故障の発生や、職員の退職に伴う執行体制の見直しが課題となっていた。 ・システムの再構築により、現地操作方式から遠隔制御方式に変更することで水門等の施設管理を一元化し、業務の省力化を図ることができる。				
見積概要（局評価）	・平成23年度から新システムを全面的に運用し、管理の一元化、各施設の日常点検業務の委託化を図り、常勤職員の定数の見直しを行う。 ・その他、新システムに係る光ファイバーケーブルの保守管理費、水門等４施設の日常点検業務の委託経費、水門管理センター稼働に伴う維持管理費等を新たに計上する。	拡大充実	見直し再構築	移管終了	その他
		23年度見積額	571,283 千円		
		(定数見直し効果)	△24,027 千円		
人事部評価	・職員の退職が進む中で水門等施設を適切に管理・運用していくため、民間委託により執行体制の効率化を図ることは妥当である。 ・加えて、各施設の運転監視業務及び保全業務について、更なる民間委託や非常勤職員の活用を図り、より効率的な執行体制を構築していくべきである。	執行体制の見直し			
		職員定数	△８人	新たな体制	委託化、非常勤１名
財務局評価	・水門管理システム再構築の目的は、各水門等施設の効率的な管理運営であり、管理の一元化及び業務の省力化に伴う運営体制の見直しは適切である。 ・また、充当都債金利や退職給与引当金繰入額も含めた再構築前後の管理・運用経費の比較により、効率性の向上が見込まれる（下記参照）ことから、新システムの全面的な運用に係る所要の経費を計上する。	拡大充実	見直し再構築	移管終了	その他
		23年度予算額	588,856 千円		
		(定数見直し効果)	△64,072 千円		

水門管理システムの再構築前後の経費比較

〔再構築期間：平成16～22年度〕

■管理・運用経費

15年度（再構築前）

人件費	598百万円
事業費	436百万円
設備維持費	328百万円
光熱水費	94百万円
施設管理費	14百万円
都債金利	-
計	1,034百万円

23年度（再構築後）

人件費	223百万円
事業費	623百万円
設備維持費	357百万円
光熱水費	85百万円
施設管理費	147百万円
都債金利	34百万円
計	846百万円

再構築により、年間188百万円の経費縮減

(注)人件費には、退職給与引当金繰入額を含む。